医療の現場から　～治療トピックス～

胃十二指腸潰瘍

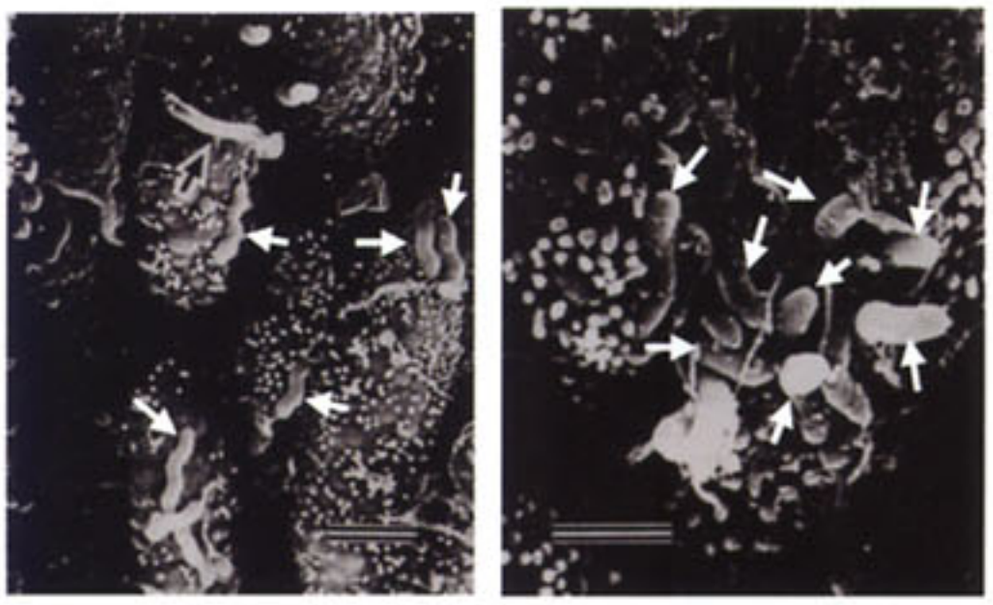
消化器科部長　芦沢　信雄

胃十二指腸潰瘍とは胃十二指腸の粘膜が削れて痛んだり出血したりする病気です。あの夏目漱石も胃潰瘍で長年苦しんだそうで，その当時から**ストレス**が原因であることはよく理解されていました。最近では**ヘリコバクター・ピロリ菌（図：写真）**が胃内に持続感染していることが重要な原因であり，この細菌を胃の中から退治（除菌）すると，今まで再発を繰り返していた胃十二指腸潰瘍から多くの人が開放されることもわかってきました。

当院でも胃十二指腸潰瘍と診断された人または過去になったことがある人で，胃内にこの細菌の存在を確認したら，できるだけ除菌治療を行っています。除菌治療とは抗生物質２種類と胃酸を最も強力に抑える薬剤１種類を１週間内服するという治療で，約８から９割の人はこれで除菌できます。この他に胃十二指腸潰瘍の原因として**鎮痛剤**による副作用があります。この副作用は高齢になるほど起こりやすく，また過去に胃十二指腸潰瘍になったことのある人，ステロイドという薬を飲んでいる人，心筋梗塞や脳梗塞の予防のために血を固まりにくくする薬を飲んでいる人，複数または多量の鎮痛剤を投与されている人は高頻度に鎮痛剤瘍を発症することがわかっており，これらに該当する人たちを高危険群として取り扱う必要があります。しかし通常の胃薬では十分に予防できませんので、鎮痛剤による胃粘膜障害を専門に抑える薬（プロスタグランジン製剤）か，胃酸を最も強力に抑える薬（プロトンポンプ阻害剤）も飲んで胃十二指腸潰瘍を予防するしかありません。そこで当院では鎮痛剤潰瘍対策として，高危険群の人に鎮痛剤を投与する時には、これらの予防薬も併用するようにしています。これによって下表のように鎮痛剤潰瘍の発見件数は激減しました。当院では今まで高齢の基準を70歳以上としていましたが一般に言われているように60歳以上を高危険群に入れてもっと対策を徹底すると，当院で年間に24例あった鎮痛剤潰瘍は２～３例にまで減少させることができるはずです。

平成14年以降のヘリコバクター・ピロリ除菌治療の影響で下表に示すように非鎮痛剤性潰瘍も半減しています。鎮痛剤潰瘍対策とヘリコバクター・ピロリ除菌を行うことにより胃十二指腸潰瘍はかなり予防できるのです。胃十二指腸潰瘍になったことのある人や鎮痛剤をよく使う人にとって知っていなければ損な話です。ヘリコバクター・ピロリ菌については内科外来に説明用のパンフレットもありますので，興味のある方は内科外来受付まで申し出てください。

図：胃カメラ下に採取した胃粘膜組織標本走査電子顕微鏡写真（撮影　芦沢）イモムシのようなヘリコバクター・ピロリ菌が胃粘膜上の微絨毛をかきわけてうごめいている様子を示している。



<表>胃カメラで発見した胃十二指腸潰瘍例数の推移（玉造厚生年金病院）

	鎮痛剤潰瘍対策前 H.14.4.1 ～ H.15.3.31	鎮痛剤潰瘍対策後 H15.9.1 ～ H.16.8.31
鎮痛剤投与中発症例	24例 →	9例
鎮痛剤非投与中発症例	23例 →	14例

＊当院では平成14年４月以降、積極的にヘリコバクター・ピロリ除菌治療開始しています。

＊上記の症例数は発見された数です。実際には無症状で経過する胃十二指腸潰瘍もかなりあり、そのような場合には胃カメラ検査をすることはないので、本当の発症数はこれよりもかなり多いものと思われます。